

平成17年度 保健学部 教室別業績集 目次

49	物理学	…	2	67	分子生物学	…	12
51	分析化学	…	2	68	臨床遺伝学	…	12
52	環境生命科学	…	2	70	臨床内科学1	…	13
53	健康スポーツ科学	…	3	71	臨床内科学2	…	15
55	病理学	…	3	72	救急医学	…	16
56	生理学	…	4	73	臨床外科学	…	16
56	臨床生理学教室	…	6	76	公衆衛生学	…	17
57	生化学	…	7	78	成人保健学	…	20
58	臨床血液学	…	8	79	精神保健学	…	20
59	免疫学	…	8	85	成人高齢者看護学	…	25
60	臨床微生物学	…	8	86	精神看護学	…	27
64	病態生化学	…	10	87	母子看護助産学	…	27
65	臨床検査学	…	10	88	地域看護学	…	30

物理・ME

I. 口演

1. 渡辺篤志¹, 大井綱郎¹, 奥田知規², 川澄岩雄, 小林博子³, 嶋津秀昭³ (¹東京医大・霞ヶ浦病院, ²おくだ皮膚科クリニック, ³杏林大・保・生理学,) : 体表組織粘弾性特性の非接触的計測. 第44回日本生体医工学会大会, つくば, 平成17年4月25日.
2. 渡辺篤志, 瀬野晋一郎¹, 小林博子¹, 嶋津秀昭¹ (¹杏林大・保・生理学) : 非接触的計測法による体表組織粘弾性特性の臨床的評価. 第34回杏林医学会総会, 三鷹, 平成17年1月19日.

II. 論文

1. 奥田知規¹, 加藤幸子², 瀬野晋一郎², 秋元恵実², 小林博子², 渡辺篤志, 大井綱郎³, 嶋津秀昭² (¹おくだ皮膚科クリニック, ²杏林大・保・生理学, ³東京医大・霞ヶ浦病院) : 帯状疱疹における痛み定量評価の試み - Visual analogue scale : VAS との比較意義 -. 日皮会誌 115 : 2373-2380, 2005.

その他

1. 川澄岩雄, 田中薫, 渡辺篤志, 井上宗一¹, 竹枝清敏¹, 浅野綾子¹, 田澤かおり¹, 藤野恵¹ (¹杏林大・情報教育センター) : 遠隔授業システムの構築について. 杏林大学研究報告 第23巻 : 33-42, 2006.

分析化学教室

口演

1. Okada Y, Tanaka K, Fujita I, Sato E & Okajima H : Allicin as an antioxidant: kinetic studies in homogeneous solution. 78th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society, Kobe, Oct. 19 - 22, 2005.
2. 岡田洋二, 田中薫¹, 佐藤英助², 丘島晴雄 (¹杏林大・保・医用情報工学, ²青森大・薬・分析化学) : アリシンの抗酸化機構に関する研究—アリル位水素の関与—. 第126年会日本薬学会, 仙台, 平成18年3月28 - 30日.

論文

1. Okada Y, Tanaka K, Fujita I, Sato E & Okajima H : Antioxidant activity of thiosulfates derived from garlic. Redox Report 10 : 96 - 102, 2005.

環境生命科学

I. 口演

1. Gamou S, Hirayama T & McCormick TR¹ (Dept. Med. History Ethics, Univ. Washington) : Clinical ethics is on request in genomic medicine era. Human Genome Meeting 2005, Kyoto, Apr. 18-21, 2005.
2. 蒲生忍, 鈴木知晴, 本田 誠, 松本 誠治, Sturzenbaum SR¹ (¹Dept. Biosci, Univ. Cardiff) : 貧毛類のAAA+タンパク-精子形成に関連したVCP相同遺伝子の発現. 日本分子生物学会第28回年会, 福岡, 平成17年12月7-10日
3. Gamou S: Bioethics in Japan -when east meets west.. 臨床医学倫理研究会, 台南, Mar. 3, 2006.

4. Gamou S: Moving beyond ethics committee-Integrating & organizing clinical ethics. 臨床医学倫理研究会, 台南, Mar. 4, 2006.

II. 論文

1. 蒲生忍, 鈴木知晴: 生物の生殖多様性と共通性-ゲノム生物学の視点から. 杏林医誌 36: 5-13, 2005.
2. Suzuki T, Honda M, Matsumoto S, Sturzenbaum SR¹ & Gamou S (Dept. Biosci, Univ. Cardiff): Valosine-containing proteins (VCP) in an annelid - Identification of a novel spermatogenesis related factor. Gene 362: 11-18, 2005.
3. Koji H, Yamada A¹, Nagasawa T¹ & Gamou S (Dept Int Med, Kyorin Univ Sch Med): DMRT-1 expression during NEC8 human embryonic carcinoma cell differentiation. Cancer Science 97: 277-282, 2006.

健康スポーツ科学研究室

I. 口演 (学会等)

1. 高橋宗良、青葉貴明¹、松本高明² (¹ 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科, ² 国士舘大学体育学部) : 中高年女性を対象とした水中運動時のウォームスーツの保温効果. 第60回日本体力医学会大会, 倉敷市, 平成17年9月23日.
2. 青葉貴明¹、高橋宗良、奥勝隆²、浅井泰詞²、遠矢英憲³、松本高明⁴ (¹ 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科, ² 国士舘大学, ³ 財団法人社会スポーツセンター, ⁴ 国士舘大学体育学部) : 中高年齢女性の水中運動におけるウォームスーツの保温効果と身体組成の関係. 日本体育学会第56回大会, つくば市, 平成17年11月26日.

病理学教室

Pathology

I. 口演

1. 山本寛, 滝口祥恵¹, 郡秀一², 飯島淳子², 安井英明², 海野みちる³, 大河戸光章, 藤井雅彦 (¹ 千葉県立東金病院検査科, ² 杏林大・保・細胞診断学, ³ 同・医・病理学) : 前立腺組織におけるD2-40の発現. 第54回日本医学検査学会, 京都, 平成17年5月13-14日.
2. 郡秀一¹, 山本寛, 飯島淳子¹, 安井英明¹, 藤井雅彦, 福田利夫¹, 吉田朋美¹, (¹ 杏林大・保・細胞診) : ウエイブサイトを用いた形態系教育の試み. 第54回日本医学検査学会, 京都, 平成17年5月13-14日.
3. 岡敏郎¹, 石井保吉¹, 栗原達哲¹, 峯岸千佳子¹, 中島弘一¹, 増野由香梨¹, 窪田真弓¹, 大村峯夫², 小田瑞恵^{1,3}, 藤井雅彦 (¹ 東京顕微鏡院臨床検査部細胞病理診断科, ² ころとからだの元気プラザ婦人科, ³ 同・女性のための生涯医療センター) : 職域検診における子宮頸がん検診成績の検討. 第46回日本臨床細胞学会総会, 福岡, 平成17年5月26-28日.
4. 山本寛, 滝口祥恵¹, 郡秀一², 飯島淳子², 安井英明², 海野みちる³, 大河戸光章, 藤井雅彦 (¹ 千葉県立東金病院検査科, ² 杏林大・保・細胞診断学, ³ 同・医・病理学) : 前立腺腫瘍におけるPIN Cocktail (P504S+p63) 抗体の検討. 第42回関東甲信地区医学検査学会, 東京, 平成17年9月18日.
5. T Onogawa¹, H Yamamoto, K Arae¹, K Morita², T Taki³, N Endou¹ (Departments of Immunology¹, Pathology, Medical Microbiology², Kyorin University School of Health Sciences, Departments of Microbiology³, Kitasato University School of Allied Health Sciences) : Delivery of soluble IL-6 receptors down-regulates the inflammatory response in the lu

ngs o mice with sepsis from *Staphylococcal* infection. International Cytokine Society Conference 2005, Seoul ,Oct.27-31, 2005.

II. 論文

1. 大河戸光章, 坂本穆彦¹, 海野みちる¹, 藤井雅彦 (¹杏林大・医・病理学) : 腺腫甲状腺腫のクローン解析. 診断病理 Vol 22 : 87-93. 2005.
2. 山本寛, 滝口祥恵¹, 郡秀一², 飯島淳子², 安井英明², 海野みちる³, 大河戸光章, 藤井雅彦 (¹千葉県立東金病院検査科, ²杏林大・保・細胞診断学, ³同・医・病理学) : 乳腺腫瘍における Vascular Endothelial Growth Factor-C の発現とリンパ管侵襲. 医学検査 Vol 54 : 1072-1076. 2005.
3. 山本寛, 滝口祥恵¹, 郡秀一², 飯島淳子², 安井英明², 海野みちる³, 大河戸光章, 藤井雅彦 (¹千葉県立東金病院検査科, ²杏林大・保・細胞診断学, ³同・医・病理学) : リンパ管内皮細胞特異抗体(D2-40)を用いた乳癌のリンパ管侵襲の検討. 医学検査 Vol 54 : 1327-1331. 2005.

III. 著書

1. 藤井雅彦 : 術中迅速細胞診. 細胞診を学ぶ人のために (第4版). 坂本穆彦編集. 東京, 医学書院, 2005. p78-79.

生理学

I. 口演

1. 嶋津秀昭 : 理解すべき工学的知識 I . 第 11 回第 1 種ME 技術 実力検定試験講習会, 東京, 平成 17 年 4 月 10 日.
2. 渡辺篤志¹, 大井綱郎², 奥田知規³, 川澄岩雄¹, 小林博子, 嶋津秀昭 (¹杏林大・保・医用工学, ²東京医大・霞ヶ浦病院, ³おくだ皮膚科クリニック) : 体表組織粘弾性特性の非接触的計測. 第 44 回日本生体医工学会大会, つくば, 平成 17 年 4 月 25 日.
3. 瀬野晋一郎, 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭 : 電気刺激による痛み定量評価法の分析と従来法との比較. 第 44 回日本生体医工学会大会, つくば, 平成 17 年 4 月 25 日.
4. 嶋津秀昭, 小林博子, 加藤幸子, 秋元恵実 : 動脈血管における内中膜弾性特性の間接的測定法の実験的評価. 第 82 回日本生理学会大会, 仙台, 平成 17 年 5 月 18 日.
5. Shimazu H : Indirect measurement of Arterial Stiffness Index(ASI)-usefulness of ASI and the difference with other indexes. Vascular Research Working Group -Clinical application of arterial stiffness-, Busan, May 27, 2005.
6. 塩入照久¹, 上原一郎², 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭 (¹中央医療学園専門学校, ²呉竹鍼灸柔整専門学校) : 頸部の鍼刺激が動脈血管弾性特性に及ぼす効果の評価. 第 54 回 (社) 全日本鍼灸学会学術大会, 福岡, 平成 17 年 6 月 11 日.
7. 米永繁樹¹, 有馬太郎², 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭 (¹国際東洋医療鍼灸学院, ²呉竹鍼灸柔整専門学校) : 合谷鍼刺激治療効果の定量的評価. 第 54 回 (社) 全日本鍼灸学会学術大会, 福岡, 平成 17 年 6 月 12 日.
8. 有馬太郎¹, 米永繁樹², 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭 (¹呉竹鍼灸柔整専門学校, ²国際東洋医療鍼灸学院) :

- 実験的上唇部痛の三叉神経領域鍼刺激による治療効果の評価。 第54回(社)全日本鍼灸学会学術大会, 福岡, 平成17年6月12日.
9. 加藤幸子, 大倉美樹¹, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭(¹関東鍼灸専門学校): 連続施灸における灸温度変化の実験的検討。 第54回(社)全日本鍼灸学会学術大会, 福岡, 平成17年6月12日.
10. 嶋津秀昭: 韓国における血管研究グループ会議の報告。 第5回 日本AS研究会・報告講演, 東京, 平成17年9月3日.
11. 奥田知規¹, 嶋津秀昭(¹おくだ皮膚科クリニック): 強皮症における体表組織弾性特性の非接触計測の試み—スキンスコアとの比較—。 多摩皮膚科専門医会, 武蔵野, 平成17年10月15日.
12. 渡辺篤志¹, 瀬野晋一郎, 小林博子, 嶋津秀昭(¹杏林大・保・医用工学): 非接触的計測法による体表組織粘弾性特性の臨床的評価。 第34回杏林医学会総会, 三鷹, 平成17年11月19日.
13. 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭: 頸部鍼刺激が動脈血管弾性特性に及ぼす効果。 第34回杏林医学会総会, 三鷹, 平成17年11月19日.
14. 有馬太郎, 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭: 痛み定量分析法による実験的上唇部痛の鍼刺激による治療効果の評価。 第34回杏林医学会総会, 三鷹, 平成17年11月19日.
15. 瀬野晋一郎, 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭: 電気刺激による痛みの定量評価法—領域内に広がりをもつ痛みの評価—。 第3回生活支援工学系学会連合大会, 津, 平成17年12月8日.
16. 瀬野晋一郎, 加藤幸子, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭: 電気刺激を用いた痛み定量法の原理的検討と実験的痛みの定量法。 人と福祉を支える技術フォーラム2006, 東京, 平成18年3月4日.

II. 論文

1. 加藤幸子, 木暮守宏¹, 笠原多嘉子¹, 久光 正¹, 秋元恵実, 小林博子, 嶋津秀昭(¹昭和大・医・第一生理学): アロマセラピーでの精油に対する好き嫌いが自律神経系に与える影響。
Journal of Japanese Society of Aromatherapy 4: 41-46, 2005.
2. Sato H¹, Hayashi J¹, Harashima K, Shimazu H & Kitamoto K¹ (¹Dept of General Medicine, School of Medicine): A Population-based Study of Arterial Stiffness Index in Relation to Cardiovascular Risk Factors. J Atheroscler Thromb 12: 175-180, 2005.
3. 奥田知規¹, 加藤幸子, 瀬野晋一郎, 秋元恵実, 小林博子, 渡辺 篤志², 大井綱郎³, 嶋津秀昭(¹おくだ皮膚科クリニック, ²杏林大・保・医用工学, ³東京医大・霞ヶ浦病院): 帯状疱疹における痛み定量評価の試み—Visual analogue scale: VASとの比較意義—。 日皮会誌 115: 2373-2380, 2005.

IV. その他

1. 嶋津秀昭: 解説特集: ME技術実力検定試験制度25周年記念特集。ME技術実力検定試験合格者に望むこと。生体医工学 43: 508-509, 2005.

臨床生理学教室

I. 口演 (学会等)

1. 山崎志帆, 三谷博子, 石山陽事: 睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の型判定モニタについての検討. 第 16 階日本臨床モニター学会, 東京, 平成 17 年 4 月 22-23 日.
2. 三谷博子, 石山陽事, 水田陽¹, 片岡幸代¹ (¹アプリカ葛西): 成人と新生児を対象とした生体信号の無侵襲計測法の基礎的検討. : 第 44 回日本生体医工学学会, つくば, 平成 17 年 4 月 25-27 日.
3. 三谷博子, 石山陽事: SSR 波形のコンピュータシミュレーションによる発生要因の検討. 日本医工学治療学会第 21 回学術大会, 東京, 平成 17 年 5 月 13-15 日.
4. 今井正¹, 三谷博子, 石山陽事, 横尾智子¹, 高濱真紀子¹, 半藤厚司¹ (¹東京文化医学技術専門学校): 手掌と指先における交感神経皮膚反応 (SSR) の潜時差に関する検討. 第 82 回日本生理学会, 仙台, 平成 17 年 5 月 18-20 日.
5. 水田陽¹, 片岡幸代¹, 三谷博子, 石山陽事 (¹アプリカ葛西): 新生児・乳児を対象とした無拘束生体計測法に関する検討. 第 21 回ライフサポート学会 (第 5 回日本生活支援工学系学会連合大会), 三重, 平成 17 年 12 月 8-9 日.
6. 三谷博子, 石山陽事, 今井正¹ (¹東京文化医学技術): 指末梢部交感神経皮膚反応 (SSR) 記録の有用性とその立上り潜時に関する一考. 第 52 回日本臨床検査医学会, 福岡, 平成 17 年 11 月 17-20 日.
7. 三谷博子, 石山陽事: 指末梢部より導出される交感神経皮膚反応 (SSR) 記録に関する検討. 第 35 回日本臨床神経生理学会, 福岡, 平成 17 年 11 月 30-12 月 2 日.
8. 三谷博子, 石山陽事: パターン反転刺激による視路脳幹電位の推定. 第 35 回日本臨床神経生理学会, 福岡, 平成 17 年 11 月 30-12 月 2 日.
9. 水田陽¹, 片岡幸代¹, 三谷博子, 石山陽事 (¹アプリカ葛西): 新生児・乳児を対象とした無拘束生体計測法に関する検討. 第 3 回生活支援工学系学会連合大会 (第 21 回ライフサポート学会), 三重, 平成 17 年 12 月 8-9 日.
10. 新井雅子, 久古真由香, 三谷博子, 石山陽事: κ 律動の出現様式と高次脳機能障害に関する基礎的検討. 八王子産学公連機構 第 5 回研究成果等発表講演会 はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会, 八王子, 平成 16 年 12 月 10 日.
11. 赤塚成美, 田中大介, 藤本有佳里, 三谷博子, 石山陽事: 睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の型判定指先センサの開発に関する基礎的検討. 八王子産学公連機構 第 5 回研究成果等発表講演会 はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会, 八王子, 平成 16 年 12 月 10 日.
12. 陣場貴之, 松井美沙江, 三谷博子, 石山陽事: 乳幼児突然死症候群の検知を目的とした非接触在宅方モニタリングシステムに関する基礎的研究. 八王子産学公連機構 第 5 回研究成果等発表講演会 はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会, 八王子, 平成 16 年 12 月 10 日.
13. 新井雅子, 久古真由香, 三谷博子, 石山陽事: κ 律動の出現様式と高次脳機能障害に関する基礎的検討. 八王子産学公連機構 第 5 回研究成果等発表講演会 はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会, 八王子, 平成 16 年 12 月 10 日.

II. 論文

1. 石山陽事: 脳波信号と雑音. 臨床神経生理学 33: 567-577, 2005.
2. 石山陽事: 神経生理検査に必要な医用工学の基礎知識. 55: 89-102, 2006.
3. 今井正¹, 横尾智子¹, 高濱真紀子¹, 半藤厚司¹, ホセ由江¹, 熊谷佑子¹, 川西美代子¹, 三谷博子, 石山陽事 (¹東京文化医学技術専門学校): 手掌と指先における交感神

経皮膚反応 (SSR) の潜時差に関する検討. 東京文化短期大学紀要 23 : 25-29, 2006.

III. 著書 (電子メディアも含む)

1. 石山陽事: 「第 1 種 ME 技術実力検定試験」講習会テキスト, 第 4 章脳波関連機器, 編集委員長小野哲章, 東京, (社) 日本生体医工学会 ME 技術教育委員会, 2006. P. 205-231

IV. その他 (報告書, 監修, 翻訳, 学会主催等)

1. 石山陽事 (講習会): 計測診断機器 (脳波計, 筋電計, 呼吸機器等) の概要と管理技術. 第 1 種 ME 講習会, 東京, 平成 17 年 4 月 10 日.
2. 石山陽事 (講習会): 修理業への期待. 厚生労働大臣指定修理業責任者技術専門講習会, (財) 医療機器センター, 東京, 平成 17 年 10 月 4 日
3. 石山陽事 (講習会): 修理業への期待. 厚生労働大臣指定修理業責任者技術専門講習会, (財) 医療機器センター, 東京, 平成 17 年 11 月 1 日
4. 石山陽事: 編集後記, 医工学治療 17 : , 2005.
5. 石山陽事: 国試の常識 50 医用工学概論. Medical Technology 33 : 1212-1213, 2005
6. 石山陽事: 平成 17 年度二級臨床検査士資格認定試験について, 神経生理学 (東日本), 日本臨床検査同学院通信 30 : 138, 2005.
7. 石山陽事: 試験委員の立場から—第 2 種 ME 技術実力検定試験を中心に—. 生体医工学 43 : 522-523, 2005.

生化学

H16 年度の業績に追加

口演

1. Takeda M¹, Tanimoto T¹, Ikeda M¹, Kadoi J¹, Nasu M¹, Shima Y, Ohta H, Matsumoto S¹. (¹ 日本歯科大・歯学部): Changes in the excitability of large-diameter trigeminal root ganglion neurons innervating intact cutaneous area after temporomandibular joint inflammation in rats. 第 27 回日本神経科学大会, 第 47 回日本神経化学会大会 合同大会. 大阪, 平成 16 年 9 月 21-23 日

口演

1. 島 幸夫 太田 英彦: 皮膚表面細胞からの RNA 抽出の検討. 第 12 回日本遺伝子診療学会大会. 松本, 平成 17 年 8 月 4-5 日.
2. 島 幸夫 太田 英彦: 血清尿酸値と尿酸トランスポータ遺伝子多型との関連性. 第 45 回日本臨床化学会年回, 第 52 回日本臨床検査医学会 連合大会. 福岡, 平成 17 年 11 月 17-20 日.

その他

1. 太田 英彦: Microscope, bag, and Furoshiki. 外科病理の創始者 太田邦夫先生記念会. 東京, 平成 17 年 10 月 7 日.

臨床血液学教室

I. 口演 (学会等)

1. 中竹俊彦：特殊染色方法と見方. 第30期・日本臨床検査専門学院（日本衛生検査所協会）技術講習会，東京，平成17年10月4日.
2. 中竹俊彦：臨床血液学特別講義. 宮城県立総合衛生学院（仙台），平成18年1月16日，17日.
3. 中竹俊彦：重要なポイントでは，どのように細胞をみたり考えたりするか. 静岡血液フォーラム（静岡県臨床検査技師会），静岡，平成18年2月19日.

II. 論文

III. 著書 (電子メディアを含む)

1. 中竹俊彦：骨髓像判読トレーニングソフト(CD-ROM)「ブラストマスター」，東京，(株)ユニバーサルコンピュータ，2005.10.1.

IV. その他 (報告書，監修，翻訳，学会主催等)

免疫学

I. 口演 (学会等)

Tsuyoshi ONOGAWA, Hiroshi YAMAMOTO, Ken ARAE, Kouji Morita, Tatsuo Saito-Taki and Nobuko ENDO: Delivery of soluble IL-6 receptors down-regulates the inflammatory response in the lungs of mice with sepsis from Staphylococcal infection. International Cytokine Society Conference 2005, Seoul, Oct. 27-31, 2005.

臨床微生物

I. 口演

1. 森田耕司，渡辺登，金森政人，関口純一郎¹，岡崎充宏²（¹国際医療センター研・感染症制御研究部，²杏林大・病・中央検査部）：*Citrobacter freundii*と*Klebsiella pneumoniae*に認めた新型メタロ-β-ラクタマーゼ遺伝子. 第79回日本感染症学会総会，名古屋，平成17年4月14-15日.
2. 森田耕司，渡辺登，岩崎友美，金森政人，近真理奈¹，倉園貴至¹，山口正則¹，関口純一郎²，切替照雄²，松下秀³，（¹埼玉衛研，²国際医療センター研・感染症制御研究部，³都健康安全研究センター）：下痢患者由来のCTX-M-3型β-ラクタマーゼ産生、ホスホマイシン耐性志賀毒素産生大腸菌O26:H11について. 第9回腸管出血性大腸菌感染症シンポジウム、盛岡、平成17年6月23-24日.
4. Sekiguchi J¹, Tharavichitkul P², Chupia V², Irie A¹, Fujino T¹, Morita K, Miyoshi-Akiyama T¹, Kutratsuji T¹, Kirikae T¹（¹International Medical Center of Japan, ²Chiang Mai University Faculty of Medicine）: Cloning and characterization of a novel trimethoprim-resistant dihydrofolate reductase from *Staphylococcus aureus* CM.S2(IMCJ1454). The 105th General Meeting of the American Society for Microbiology (ASM), Atlanta, J

une. 5-9, 2005.

5. 森田耕司, 岩崎友美, 渡辺登, 古川友子, 金森政人, 鈴木理恵子¹, 沖津忠行¹, 新川隆康¹, 倉園貴至², 近真理奈², 山口正則², 伊藤健一郎³ (¹神奈川衛研, ²埼玉衛研, ³感染研・感染症情報センター) : 志賀毒素産生大腸菌における *eae*, *cesT*, *tir* 遺伝子の多型. 第9回腸管出血性大腸菌感染症シンポジウム, 盛岡, 平成17年6月23-24日.
6. 森田耕司, 渡辺登, 岩崎友美, 金森政人, 関口純一郎¹, 切替照雄¹, 近真理奈², 倉園貴至², 山口正則² (¹国際医療センター研・感染症制御研究部, ²埼玉衛研) : 志賀毒素 O26:H11 に保有を認めた伝達性プラスミド pSTEC3060 の *bla*_{CTX-M-3} とその周辺構造. 薬剤耐性菌シンポジウム・第3回薬剤耐性菌研究会統合会, 伊香保, 平成17年11月25-26日.
7. Onogawa T¹, Yamamoto H², Arae K¹, Morita K, Saito-Taki T³, Endo N¹ (¹Department of Immunology, ² Pathology, Kyorin University School of Health Sciences, ³Department of Microbiology, Kitasato University School of Allied Health Sciences): International Cytokine Society Conference 2005, Seoul, Oct.27-31, 2005.
8. 岩崎友美, 森田耕司, 渡辺登, 金森政人 : 志賀毒素産生大腸菌 0157:H7 の *cesT* 遺伝子型別を利用した迅速診断法. 第34回杏林医学会総会, 三鷹, 平成17年11月19日.
9. 森田耕司, 渡辺登, 岩崎友美, 金森政人 : 志賀毒素産生大腸菌に認めた *bla*CTX-M-3 プラスミド pSTEC3060 は NR1 に由来する. 第34回杏林医学会総会, 三鷹, 平成17年11月19日.
10. 岩崎友美, 森田耕司, 渡辺登, 金森政人, 倉園貴至¹, 山口正則¹, 鈴木理恵子², 沖津忠行², 伊藤健一郎³ (¹埼玉衛研, ²神奈川衛研, ³感染研・感染症情報センター) : 下痢原性大腸菌の *eae* 遺伝子を中心とした病原性関連遺伝子多型. 第79回日本細菌学会総会, 金沢, 平成18年3月29-31日.
11. 渡辺登, 森田耕司, 岩崎友美, 金森政人 : 12株の *Aeromonas hydrophila* からクローニングしたリパーゼ遺伝子の解析. 第79回日本細菌学会総会, 金沢, 平成18年3月29-31日.

II. 論文

1. Sekiguchi J¹, Asagi T², Miyoshi-Akiyama T¹, Fujino T¹, Kobayashi I³, Morita K, Kikuchi Y², Kuratsuji T¹ & Kirikae T¹ (¹International Medical Center of Japan, ²Sendai Medical Center, ³Seimitsubishi Kagaku BCL) : Multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa* strain that caused an outbreak in a neurosurgery ward and its *aac*(6')-Iae gene cassette encoding a novel aminoglycoside acetyltransferase. Antimicrob Agents Chemother 49: 3734-3742, 2005.
2. Sekiguchi J¹, Tharavichitkul P², Miyoshi-Akiyama T¹, Chupia V², Fujino T¹, Araake M¹, Irie A¹, Morita K, Kuratsuji T^{1,3} & Kirikae T¹ (¹International Medical Center of Japan, ²Chiang Mai University Faculty of Medicine, ³National Research Institute for Child Health and Development) : Cloning and characterization of a novel trimethoprim-resistant dihydrofolate reductase from *Staphylococcus aureus* CM.S2(IMCJ1454). Antimicrob Agents Chemother 49: 3734-3742, 2005.
3. 遠藤英子 : 院内感染起因菌と推測される *Enterobacter cloacae*, *Escherichia coli*, *Klebsiella oxytoca* に保有を認めた *bla*CTX-M に関する分子遺伝学的研究. 杏林医会誌 36: 45-159, 2005.
4. Izumiya H¹, Mori K¹, Kurazono T², Yamaguchi M², Higashide M³, Konishi N⁴, Kai A¹, Morita K, Terajima J¹ & Watanabe H¹ (¹National Institute of Infectious Diseases, ²Saitama

Institute of
Public health, ³Koto-Biken Medical Laboratories): Characterization of Isolates of *Sa
lmonella enterica* serovar Typhimurium displaying high-level fluoroquinolone resistan
ce in Japan. J Clin Microbiol 43: 5074-5079, 2005.

病態生化学研究室

口演

1. 平岡厚、佐々木悟、山田智子、篠原厚子¹、千葉百子¹ (¹順天堂大・医・衛生学) : 第 33 回
日本バイオフィードバック学会学術集会, 東京, 平成 17 年 8 月 6 日.
2. 平岡厚: 金属マグネシウム水溶液の抗酸化作用の検討. 第 25 回日本マグネシウム会大会,
東京, 平成 17 年 12 月 3 日.

論文

1. Hiraoka A: Inhibition of pigmentation due to a copper-containing enzyme, tyrosinase,
by oxalates and aromatic sulfinates. Biomed Res Trace Elem, 16, 46-49, 2005.

臨床検査学

I. 口演

1. 菰田照子, 坂内久一, 大島俊文¹, 飯塚愛¹, 山崎 勉², 秋田博伸³, 岩田敏⁴, 佐藤吉壮⁵, 砂川慶介⁶
(¹ 明治乳業, ² 埼玉医大・小児科, ³ 聖マリ医大・横浜市西部病院・小児科, ⁴ 国立病院東京医療セ
ンター・小児科, ⁵ 富士重工業健康保険組合総合太田病院・小児科, ⁶ 北里大・医・感染症学):
Chlamydia trachomatis 感染者より出生した児のフォロー アップ症例にみる抗体応答. 第 79
回 日本感染症学会総会, 名古屋, 平成 17 年 4 月 15 日.
2. 菰田照子: *Chlamydia pneumoniae* 特異的 DNA 検出のための PCR 法の検討. 第 54 回 日本医学
検査学会, 京都, 平成 17 年 5 月 13 日.
3. 宮沢博, 堤明恵, 西澤智恵, 阪口雅弘¹, 大砂博之², 池澤善郎², 堀久枝³ (¹理化学研究所,
²横浜市立大・医, ³東京医科歯科大) : エビ第 2 アレルゲン(arginine kinase)の抗原性は
エビ科間で異なる. 第 17 回日本アレルギー学会春季大会, 岡山, 平成 17 年 6 月 2- 4 日.
4. Komoda T, Bannai H, Oshima T¹, Iizuka A¹, Yamazaki T², Motomura R³ (¹Meiji Dairies
Corp., ²Dept. Pediatrics, Saitama Med. Univ., ³Koujinkai Hosp. Motomura Gynecologic
Clinic): Analysis of serological response curves for *Chlamydia trachomatis*
infections by immunoblotting assay. 105th American Society for Microbiology, Atlanta,
Jun. 8, 2005.
5. 宮沢博, 西澤智恵, 堤明恵, 阪口雅弘¹, 大砂博之², 池澤善郎² (¹理化学研究所, ²横浜市
立大・医) : クルマエビの第 3 アレルゲン(Pen j 3)の同定と免疫学的特性の検討. 第 55 回
日本アレルギー学会秋季学術大会, 盛岡, 平成 17 年 10 月 20- 22 日.
6. 菰田照子, 坂内久一, 岩田敏¹, 秋田博伸², 佐藤吉壮³, 砂川慶介⁴(¹国立病院東京医療センタ
ー・小児科, ² 聖マリ医大・横浜市西部病院・小児科, ³ 富士重工業健康保険組合総合太田病院・小

児科,⁴北里大・医・感染症学): *Chlamydia pneumoniae* 感染フォローアップ症例にみる抗体応答-IgM 抗体の推移-. 第 54 回 日本感染症学会東日本地方会総会, 東京, 平成 17 年 10 月 28 日.

7. 坂内久一, 菰田照子, 吉田佳奈, 秋田博伸¹, 岩田敏², 佐藤吉壮³, 砂川慶介⁴(¹聖マリ医大・横浜市西部病院・小児科,²国立病院東京医療センター・小児科,³富士重工業健康保険組合総合太田病院・小児科,⁴北里大・医・感染症学): 比重遠心法と濾過法を用いた高純度 *C. trachomatis* 菌体の精製. 第 23 回 日本クラミジア研究会, 第 12 回 リケッチア研究会合同, 東京, 平成 17 年 10 月 30 日.
8. 宮沢博: 室内環境アレルゲンについて. 日本建築学会微生物 W.G. セミナー, 東京, 平成 17 年 12 月 5 日.

II. 論文

1. 大橋えり¹, 吉田伸治¹, 大岡龍三², 宮沢博 (¹福井大学, ²東京大・生産技術研究所): 室内空気のスギ花粉個数濃度とアレルゲン(Cry j 1)濃度について-スギ花粉による室内空気汚染の防止に関する研究(1). 日本建築学会環境系論文集 594: 39-43, 2005.

分子生物学

I. 口頭

1. Ohki R, Tateno K, Takizawa T, Aiso T & Murata M: Transcriptional termination control of a novel ABC transporter gene involved in antibiotic resistance in *Bacillus subtilis*. 3rd Conference on Functional Genomics of Gram-positive Microorganisms. 13th International Conference on Bacilli. San Diego, CA. USA. June 12-16, 2005.
2. 相磯聡子, 大木玲子: 大腸菌の定常期細胞に広く見られる mRNA の安定化. 第 28 回日本分子生物学会年会, 福岡, 平成 17 年 12 月 8 日.

II. 論文

1. Aiso T, Yoshida H, Wada A & Ohki R: Modulation of mRNA stability participates in stationary-phase-specific expression of ribosome modulation factor. *J Bacteriol.* 187: 1951-8, 2005.
2. Ohki R, Tateno K, Takizawa T, Aiso T & Murata M: Transcriptional termination control of a novel ABC transporter gene involved in antibiotic resistance in *Bacillus subtilis*. *J Bacteriol.* 187: 5946-54, 2005.

臨床遺伝学

I. 口演

1. 浅井聡子、八巻明子、清水元、松田貴雄¹、工藤純²、清水信義²、清水淑子（¹九州大・生体防御医学研究所・生殖内分泌産婦人科、²慶應大・医・分子生物）：ダウン症関連遺伝子 DSCR4 の発現とタンパクの機能解析. 第 12 回日本遺伝子診療学会, 松本, 平成 17 年 8 月 5-6 日.
2. 清水淑子, 八巻明子, 奥井理予¹, 高柳淳¹、工藤純¹, 清水信義¹（¹慶應大・医・分子生物）RING-IBR-RING 型ユビキチンリガーゼ Parkin とヒト SIM1, SIM2 タンパク質の相互作用. 第 12 回日本遺伝子診療学会, 松本, 平成 17 年 8 月 5-6 日.
3. 田村高志, 八巻明子, 東原英二¹, 清水淑子（¹杏林大・医・泌尿器）：常染色体優性多発性嚢胞腎患者における PKD1 遺伝子相同領域の変異解析. 第 13 回嚢胞性腎疾患研究会, 東京, 平成 17 年 9 月 17 日.
4. 田村高志, 相川尚美, 八巻明子, 東原英二¹, 清水淑子（¹杏林大・医・泌尿器）：常染色体優性多発性嚢胞腎患者の PKD1 遺伝子相同領域 exon2-15 の変異解析. 第 50 回日本人類遺伝学会, 倉敷, 平成 17 年 9 月 19-22 日.
5. Shimizu Y, Yamaki A, Okui M¹, Takayanagi A¹, Kudoh J¹, Shimizu N¹（¹Dept. Mol. Biol. Keio Univ. Sch. Med）Human SIM1 and SIM2 interact with RING-IBR-RING-type E3 ubiquitin ligases. 4th World Congress of Cellular and Molecular Biology, Poitiers, October 7-12, 2005.
6. Yamaki A, Okui M¹, Takayanagi A¹, Kudoh J¹, Shimizu N¹, Shimizu Y（¹Dept. Mol. Biol. Keio Univ. Sch. Med）Human SIM1 and SIM2 proteins interact with a RING-IBR-RING-type E3 ubiquitin ligase Parkin. Japanese Biochemical Society 78th Annual Meeting, Kobe, October 19-22, 2005.
7. 田村高志：血液疾患の染色体異常と解析. 日本臨床検査専門学院血液学コース、東京、平成

17年11月1日。

8. 八巻明子、夏井佑子、堺弘介¹、工藤純¹、清水信義¹、清水淑子（慶應大・医・分子生物）トランスジェニックマウスを用いたヒトSIM2遺伝子プロモーター領域の解析。第28回日本分子生物学会年会，福岡，平成17年12月7-10日。
9. 清水淑子，奥井理予¹，八巻明子，高柳淳¹，工藤純¹，清水信義¹（¹慶應大・医・分子生物）：ヒトSIM1，SIM2転写調節因子のユビキチン化。第28回日本分子生物学会年会，福岡，平成17年12月7-10日。
10. Shimizu Y, Yamaki A, Okui M¹, Takayanagi A¹, Kudoh J¹, Shimizu N¹ (¹Dept. Mol. Biol. Keio Univ. Sch. Med): Moduration of human SIM1 and SIM2 transcription factors. American Society for Cell Biology 45th Annual Meeting, San Francisco, December 10-14, 2005.

II. 論文

1. Okui M¹, Yamaki A, Takayanagi A¹, Kudoh J¹, Shimizu N¹ & Shimizu Y (¹Dept. Mol. Biol. Keio Univ. Sch. Med.) : Transcription factor single-minded 2 (SIM2) is ubiquitinated by the RING-IBR-RING- type E3 ubiquitin ligases. Exp Cell Res 309, 220-228, 2005.
2. 浅井聡子、清水元、八巻明子、松田貴雄、清水淑子（¹九州大・学生体防御医学研究所・生殖内分泌婦人科）：ダウン症関連遺伝子DSCR4の発現解析。杏林医学会雑誌 36: 32-41, 2005.
3. Shimizu Y : Molecular biology of human single-minded 2 gene involved in Down syndrome. Bull Mol Med Int J 25, 40-41, 2005.

IV. その他

1. 清水淑子：DNAサイエンス 第2版 第2章 pp37-67, 2006.

臨床内科学1

【口演】

- (1) 柳澤厚生：動脈硬化と抗加齢医学，日本抗加齢医学会専門医講習会，東京，平成17年4月3日
- (2) 柳澤厚生：医療経済の動向- 今なにをすべきか？，藤沢歯科医師会月例講習会，藤沢，平成17年4月27日
- (3) 柳澤厚生：ナチュラルアンチエイジング，藤沢歯科医師会月例講習会，藤沢，平成17年4月27日
- (4) 鱸伸子，柳澤厚生，小池秀海¹，深澤政富²，和田貴子²（¹杏林大・保・臨床内科II，²杏林大・保・救急医学）：救急救命士課程学生のコミュニケーション教育としてのコーチングの導入，日本臨床救急医学会総会，東京，平成17年4月30日
- (5) 柳澤厚生：ナースのためのコーチング・コミュニケーション，第6回広島透析看護研究会，広島，平成17年5月7日。
- (6) 柳澤厚生：アンチエイジング医学の最前線，鶴見大学歯学部専門外来講演会，横浜，平成17年6月20日。
- (7) 柳澤厚生：栄養士のための実践コーチング講座，群馬県栄養士会生涯学習研修会，前橋，平成17年6月26日。
- (8) 柳澤厚生：教育者のためのコーチング，港区教育委員会（筈小学校）教育研修，東京，平

成 17 年 7 月 1 日

- (9) 柳澤厚生：親子のためのコーチング，港区教育委員会（御田小学校）教育講座，東京，平成 17 年 7 月 5 日
- (10) 柳澤厚生：栄養士のためのコーチング実践講座，島根県栄養士会生涯学習講演会，出雲，平成 17 年 7 月 9 日。
- (11) 柳澤厚生：訪問看護師の育成のためのコーチング活用，兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会管理者研修会，神戸，平成 17 年 7 月 28 日。
- (12) 柳澤厚生：目標管理に活かすコーチング，茨城県看護協会継続教育指導者研修，水戸，平成 17 年 8 月 20 日。
- (13) 柳澤厚生：栄養士のための実践コーチング講座，岩手県栄養士会生涯学習研修会，盛岡，平成 17 年 9 月 3 日
- (14) 柳澤厚生：コーチングスキル入門，東京都福祉保健局生活習慣病予防指導者等養成主催研修会，東京，平成 17 年 9 月 15 日
- (15) 柳澤厚生：実践に活かすコーチング，三重県看護協会研修会，津，平成 17 年 9 月 29 日
- (16) 柳澤厚生：医療従事者のためのコーチング，ライフプランニングセンター研修会，東京，平成 17 年 10 月 1 日
- (17) 柳澤厚生：栄養士のためのコーチング講座，高知県栄養士会生涯学習研修会，高知，平成 17 年 10 月 23 日
- (18)) 山内亮子¹，和田貴子¹，深澤政富¹，柳澤厚生，鱸伸子，小池秀海²（¹杏林大・保・救急医学，²杏林大・保・臨床内科 II）：救急救命士課程学生のコミュニケーションスキル向上のためのコーチング実習の導入，日本救急医学会総会，宇都宮，平成 17 年 10 月 19 日
- (19) 柳澤厚生：動脈硬化と危険因子，日本キレーション普及協会講演会，東京，平成 17 年 11 月 4 日
- (20) 柳澤厚生：メディカルコーチング，日本コーチ協会第 5 回大会ワークショップ，東京，平成 17 年 11 月 4 日
- (21) 柳澤厚生：生活習慣病とアンチエイジング，第 1 回アンチエイジング歯科医学研究会講演会，東京，平成 17 年 11 月 5 日
- (22) 山内亮子¹，和田貴子¹，深澤政富¹，柳澤厚生，鱸伸子，小池秀海²（¹杏林大・保・救急医学，²杏林大・保・臨床内科 II）：救急救命士課程学生のコミュニケーションスキル向上のためのコーチング実習の導入，杏林医学会総会，東京，平成 17 年 11 月 19 日。
- (23) 柳澤厚生：食と動脈硬化とアンチエイジング，十勝動脈硬化研究会主催市民公開講座，帯広，平成 17 年 11 月 19 日。
- (24) 柳澤厚生：栄養士のためのコーチング実践術，全国行政栄養士協議会，東京，平成 18 年 2 月 16 日。
- (25) 柳澤厚生：歯科医療におけるコーチング，日本歯科大学ワークショップ，東京，平成 18 年 2 月 16 日。
- (26) 柳澤厚生：管理栄養士・栄養士と教育者のためのコーチングスキルの体験（ワークショップ），平成 17 年度全国研究教育栄養士協議会，福岡，平成 18 年 3 月 2 日。
- (27) 柳澤厚生：教育とコーチング（教育講演），平成 17 年度全国研究教育栄養士協議会，福岡，平成 18 年 3 月 2 日。

【論文】

- (1) 柳澤厚生：ナースのためのコーチング活用術，訪問看護と介護 10(4)：304-310, 2005

- (2) 仲谷寛¹, 大澤銀子¹, 古賀雅子², 鱸伸子, 柳澤厚生 (¹日本歯科大学・総合診療科, ²吉田矯正歯科) : 歯科医療へのコーチングの導入, クインテッセンス 24:168-175, 2005
- (3) 柳澤厚生 : 現場で活用できるコーチング入門, 保健師ジャーナル 61:578-589, 2005
- (4) Yanagisawa A, Suzuki N, Zhong L¹ (¹中国大連大・医) : Effects of Brewed Vinegar and red yeast extract as dietary supplement on serum lipids in middle and old aged humans. Jap J Apply Physiol 35:121-129, 2005.
- (5) 柳澤厚生 : コーチングが患者指導を変える, ナース専科 25 : 43-54, 2005
- (6) 柳澤厚生 : これからの医療に必要なコーチング - メディカル・コーチングが変える治療のあり方, スポーツメディスン 17:10-13, 2005
- (7) 鱸 伸子 : 患者の視点から見たメディカル・コーチング, スポーツメディスン 17:14-17, 2005
- (8) 柳澤厚生 : 患者に対するコーチングを効果的につかうには, 看護学雑誌70 : 206-211, 2006
- (9) 柳澤厚生 : 金属と解毒・キレーション, 日本抗加齢医学会雑誌 2:60-63, 2006

【著書】

- (1) 鱸伸子, 柳澤厚生 (分担) : コーチング, 新しい医学教育の流れ, 編 : 高橋優三, 鈴木康之, 新しい医学教育の流れ, 519-540, 三恵社, 2005.

臨床内科学Ⅱ

I、口演

- 1. 木崎直人¹, 加藤里絵¹, 持田由美子¹, 吉田聖子¹, 司茂幸英¹, 小池秀海, 渡邊卓² (¹医・付属病院・中検, ²医・臨床検査医学) : 文字を提示した際に出現する事象関連電位 N170 について. 第 54 回日本医学検査学会総会, 京都, 平成 17 年 5 月 13-14 日.
- 2. 小池秀海 : 側頭葉機能検査としての事象関連電位 N170 の可能性. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 平成 17 年 5 月 25-27 日.
- 3. 木崎直人¹, 加藤里絵¹, 持田由美子¹, 吉田聖子¹, 司茂幸英¹, 小池秀海, 渡邊卓² (¹医・付属病院・中検, ²医・臨床検査医学) : ヒトほどの位の時間があれば顔の認知が可能か一顔の認知に関連した事象関連電位 N170 による検討一. 第 34 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 17 年 11 月 19 日.
- 4. 小池秀海, 木崎直人¹, 持田由美子¹, 吉田聖子¹ (¹医・付属病院・中検) : 提示画像の回転による N170 の変化. 第 35 回日本臨床神経生理学学会学術大会, 福岡, 平成 17 年 11 月 30 日-12 月 2 日.

II, 論文

1. 小池秀海：顔の認知に関連した事象関連電位 N170 の特徴. 臨床脳波 47 : 505-511, 2005.

救急医学教室

I. 口演

1. 和田貴子, 村田厚夫¹, 島崎修次², 柳澤厚生³, 深澤政富, 小池秀海³ (¹福岡和白病院, ²杏林大・医・救急医学, ³杏林大・保・臨床内科) : タイからの救急救命士養成所教員研修の経験. 第8回日本臨床救急医学会総会, 東京, 平成17年4月29-30日.
2. 山内亮子, 和田貴子, 鱸伸子¹, 小池秀海¹, 深澤政富, 松田剛明², 萩原章嘉², 山口芳裕², 島崎修次² (¹杏林大・保・臨床内科, ²杏林大・医・救急医学) : 救急救命士課程の学生に対するコーチング実習の導入. 第33回日本救急医学会総会・学術集会, 大宮, 平成17年10月26-28日.
3. 後藤英昭¹, 山口芳裕¹, 和田貴子, 萩原章嘉¹, 八木橋巖¹, 樽井武彦¹, 松田剛明¹, 富田泰彦¹, 長浜誉佳¹, 島崎修次¹ (¹杏林大・医・救急医学) : 当院高度救命救急センターにおける患者の細菌学的検討. 第33回日本救急医学会総会・学術集会, 大宮, 平成17年10月26-28日.
4. 山内亮子 : あなたの現場にきつと役立つ体験談～教員の立場から. IWMC 第2回医療コミュニケーションフォーラム. 東京, 平成18年2月18日
5. 鱸伸子¹, 柳澤厚生¹, 小池秀海², 和田貴子, 深澤政富 (¹杏林大・保・臨床内科 I, ²杏林大・保・臨床内科 II) : 救急救命士課程学生のコミュニケーション技術向上のためのコーチング実習の導入. 第8回日本臨床救急医学会総会, 東京, 平成17年4月29日-30日.
6. 山内亮子, 和田貴子, 鱸伸子¹, 小池秀海², (¹杏林大・保・臨床内科 I, ²杏林大・保・臨床内科 II) : 救急救命士課程学生のコミュニケーションスキル向上のためのコーチング実習の導入, 杏林医学会総会, 東京, 平成17年11月19日
7. 和田貴子 : 座長 第56回救急医学会関東地方会, 筑波, 平成18年2月25日
8. 和田貴子 : 教育現場における災害 『その時あなたは何かができるか』, 東京 平成18年3月25日第3回学校保健実践研究会

II. 著書

1. マジックマッシュルーム, 「中毒症のすべて いざというときに役立つ的確な治療のために」, 黒川顕編, 永井書店, 2005, p. - .
2. 救急医療「広範囲熱傷の初期治療」, 2006年度版今日の治療指針, 福井次矢編, 医学書院, 2005, p. 28-30

臨床外科学教室

I 口演

斉藤博¹, 藤原隆明 (¹杏林大・医・眼科,) : 酸素透過性ハードコンタクトレンズ30日間連続装用の治験. 第48回日本コンタクトレンズ学会総会, 横浜市, 平成17年7月9日.

II 論文

大石正夫¹, 宮永嘉隆², 大野重昭³, 藤原隆明, 佐々木一之⁴, 塩田洋⁵ (¹白根健生病院眼科, ²西葛西井上眼科病院, ³北海道大・医・眼科, ⁴金沢医科大・眼科, ⁵徳島大・医・眼科) : Drop ipenem の眼組織移行性と眼科領域感染症に対する臨床効果. 日本化学療法学会雑誌 53S-1, 313-

321, 平成 17 年 7 月 20 日.

高間直彦¹, 藤原隆明 (¹たかま眼科クリニック,) : 内麦粒腫に対する排膿散及湯の有効性. 眼科臨床医報, 100 (1) : 9-11, 平成 17 年 1 月.

III 著書

藤原隆明 (分担執筆) : 白内障の検査 (コメント), すぐに役立つ眼科診療の知識「白内障」. P3-8. (谷口重雄, 綾木雅彦編著) 金原出版. 平成 16 年 3 月 31 日.

公衆衛生学

I. 口演

平成 16 年度追加分

1. 照屋浩司、岡本博照¹、深澤進次¹、武田伸郎¹、松井知子¹、大嶺智子²、市川佳居¹、竹前健彦、上村隆元、角田透¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²杏林大・保・養護教育、) : 住民健診におけるBNP測定の意義について—単年度における有所見者のフォローアップ結果—。第 75 回日本衛生学会、新潟、平成 17 年 3 月 27 日～30 日。

平成 17 年度

1. 武田伸郎¹、岡本博照¹、照屋浩司、上村隆元¹、松井知子¹、大嶺智子²、深澤進次¹、市川佳居¹、角田透¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²杏林大・保・養護教育) : 事務系作業者の睡眠不足症候群について—エップワース眠気尺度 (ESS) と動脈血酸素飽和度低下指数 (4 %ODI) による検討—。第 78 回日本産業衛生学会、東京、平成 17 年 4 月 20～23 日。
2. 松井知子¹、市川佳居¹、岡本博照¹、武田伸郎¹、上村隆元¹、照屋浩司、角田透¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学) : CISM 実施に際しての留意点と産業保健上の効用—新潟県中越地震後のメンタルケア事業の経験から—。第 78 回日本産業衛生学会、東京、平成 17 年 4 月 20～23 日。
3. 島田直樹¹、照屋浩司、櫻井裕²、吉田千賀子³、中村功³ (¹慶應大・医・衛生公衛、²防衛医大・衛生、³相模鉄道診療所) : 睡眠時無呼吸症候群症例における定期健康診断成績の特徴。第 78 回日本産業衛生学会、東京、平成 17 年 4 月 20～23 日。
4. 岡本博照¹、照屋浩司、上村隆元¹、武田伸郎¹、松井知子¹、大嶺智子²、深澤進次¹、市川佳居¹、角田透¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²杏林大・保・養護教育) : 救急医師の勤務における交替制と非交替制による労働環境の差異について。第 78 回日本産業衛生学会、東京、平成 17 年 4 月 20～23 日。
5. 岡本博照¹、照屋浩司、島崎修次²、角田透¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²杏林大・医・救急医学) : 救急医・救急医療に対する医学生意識調査 (パイロット研究)。第 8 回日本臨床救急医学会総会、東京、平成 17 年 4 月 29 日。
6. 岡本博照¹、鈴木幸一郎²、石松伸一³、菊野隆明⁴、藤井千穂⁵、島崎修次⁵、照屋浩司、角田透 (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²川崎医科大・救急、³聖路加国際病院救命救急センター、⁴東京医療センター救命救急センター、⁵大阪府立千里救命救急センター、⁶杏林大・医・救急医学) : 救急医の労働環境と人員確保の阻害要因についての検討。第 8 回日本臨床救急医学会総会、東京、平成 17 年 4 月 29 日。
7. Uemura T¹, I G.P. Wirawan², Sugimori Y², Takeda N¹, Matsui T¹, Okamoto H¹, Ichikawa K¹, Fukasawa S¹, Teruya K & Tsunoda T¹ (¹Dept. of Public Health, School of Medicine, Kyorin Univ., ²Udayana Univ.) : The Evaluation of functioning for High

- amylose - contained Rice- The suppression of postprandial serum sugar level-.
The first international symposium for marine technology and bio-science for health care in Udayana University., Jimbaran, Kuta, May 10, 2005.

8. 岡本博照¹、武田伸郎¹、照屋浩司、松井知子¹、市川佳居¹、上村隆元¹、角田透¹（¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学）：事務系作業者に対する睡眠指導についての検討－ESS (Epworth Sleepiness Scale/エプワース眠気尺度)および SACL (Stress Arousal Checklist) 日本人版による検討－. 第12回日本産業精神保健学会、東京、平成17年6月17～18日.
9. 西川あゆみ²、市川佳居¹、榎田京子³、松井知子¹、角田透¹、照屋浩司、山崎敬子⁴、山本央子⁵（¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²(株)イーブ、³オプテイマム・ヒューマン、⁴ペット研究会「互」、⁵ケーナイン・アンリミテッド、）：動物介在療法 (AAT) を用いた EAP カウンセリングの心理学的および生理学的指標による効果測定を試み. 第12回日本産業精神保健学会、東京、平成17年6月17～18日.
10. 松井知子¹、大嶺智子²、照屋浩司（¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²杏林大・保・養護教育）：中学・高等学校の学校相談機能の対応について－第2報 事例からの検討－. 第24回日本思春期学会、和光、平成17年8月20～21日.
11. 朝野聡¹、照屋浩司、徳島元己²、物部博文²（¹杏林大・保・健康教育、²横浜国大・教育・人間科学）：アルコールハラスメントの関連要因の検討－共感性と権威主義的思考との関連性. 第24回日本思春期学会、和光、平成17年8月20～21日.
12. 松井知子¹、大嶺智子²、市川佳居¹、照屋浩司、武田伸郎¹、深澤進次¹、岡本博照¹、角田透¹（¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、¹杏林大・保・養護教育）：学校保健における不登校行動への段階的予防への関わり. 第64回日本公衆衛生学会総会、札幌、平成17年9月14～16日.
13. Uemura T¹, Swastica K², Sugimori Y², Takeda N¹, Matsui T¹, Okamoto H¹, Ichikawa K¹, Fukasawa S¹, Teruya K & Tsunoda T¹（¹ Dept. of Public Health, School of Medicine, Kyorin Univ., ² Udayana Univ.）：How to evaluate the functioning of food/supplement for health care. International symposium and workshop on marine genetic biodiversity in relation to the establishment of center for marine science and development as a collaborative program between Udayana University, Hokkaido University, and Kyowa concrete company. Denpasar, Sept. 27～28, 2005.
14. 松井知子¹、大嶺智子²、照屋浩司（¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学、²杏林大・保・養護教育）：不登校児童・生徒へのスクールカウンセラーの段階的予防への関わり. 第52回日本学校保健学会、仙台、平成17年10月28～30日.
15. 物部博文²、徳島元己²、朝野聡¹、照屋浩司（¹杏林大・保・健康教育、²横浜国大・教育・人間科学）：アルコールハラスメントの関連要因. 第52回日本学校保健学会、仙台、平成17年10月28～30日.
16. 島田直樹¹、菊池有利子¹、西脇祐司¹、上村隆元⁴、武林亨¹、照屋浩司、櫻井 裕²、中村功³（¹慶應大・医・衛生公衆衛生、²、防衛医科大・衛生公衆衛生、³相模鉄道診療所、⁴杏林大・医・衛生学公衆衛生学）：地域および職種におけるメタボリックシンドローム有病率の比較検討. 第70回日本民族衛生学会総会、東京、平成17年11月17～18日.
17. Ichikawa K¹, Tsunoda T¹, Matsui T¹, Nishikawa A², Teruya K, Takeda N¹ & Okamoto H¹（¹ Dept. of Public Health, School of Medicine, Kyorin Univ., ²J.EAP Inc）：Applicability of International Evaluation Tools of Employee Assistance Programs (EAP) onto Japan. The 13th International Congress on Occupational Health Services, Utsunomiya, Dec. 1～3.
18. 上村隆元¹、角田透¹、照屋浩司、武田伸郎¹、松井知子¹、岡本博照¹、宮木幸一²、市川佳居¹、深澤進次¹、能登真一³（¹杏林大・医・衛生公衆衛生、²慶應大・医・衛生公衆衛生、³新潟医

療福祉大・医療技術・作業療法) : 日本語版 HUI (Health Utilities Index) 3 を用いた健康効用値の評価 (5) . 第 76 回日本衛生学会総会、山口、平成 18 年 3 月 25~28 日.

著書

1. 照屋浩司 : 社会環境と健康、5. 情報化社会におけるコミュニケーション、管理栄養士国家試験完全攻略/○×チェック実戦 4000 問 2006 年版、医歯薬出版.
2. 照屋浩司 : 社会環境と健康、6. 生活習慣 (ライフスタイル) の現状と対策、管理栄養士国家試験完全攻略/○×チェック実戦 4000 問 2006 年版、医歯薬出版.

II. 論文

1. Kokaze A¹, Ishikawa M², Matsunaga N¹, Yoshida M¹, Makita R³, Satoh M⁴, Teruya K, Sekiguchi K¹, Masuda Y¹, Harada M¹, Uchida Y¹ & Takashima Y¹ (¹ Dept. of Public Health, School of Medicine, Kyorin Univ., ²Division of Medicosocial Activity, Okinawa Red Cross Hospital, ³Dept. of General Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁴Dept. of Allergy and Immunology, Saitama Medical School) : Longevity-associated NADH dehydrogenase subunit-2 polymorphism and serum electrolyte levels in middle-aged obese Japanese men. Mech Ageing Dev 126: 705-709, 2005.
2. Kokaze A¹, Ishikawa M², Matsunaga N¹, Yoshida M¹, Makita R³, Satoh M⁴, Teruya K, Sekiguchi K¹, Masuda Y¹, Harada M¹, Uchida Y¹ & Takashima Y¹ (¹ Dept. of Public Health, School of Medicine, Kyorin Univ., ²Division of Medicosocial Activity, Okinawa Red Cross Hospital, ³Dept. of General Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁴Dept. of Allergy and Immunology, Saitama Medical School) : Longevity-associated mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism is associated with fasting plasma glucose levels and glucose tolerance in Japanese men. Mitochondrion 5: 418-425, 2005.
3. 原田まつ子¹、小風 暁¹、吉田正雄¹、内田淑子¹、関口夏奈子¹、増田由美¹、照屋浩司、高島 豊¹ (¹杏林大・医・衛生公衛) : 新しく開発された「摂取時間帯を含む食事メニュー式栄養調査票 (MMIT)」の妥当性. 日本食生活雑誌 16 (4) : 306-312、2006.

III. 著書

3. 照屋浩司 : 社会環境と健康、5. 情報化社会におけるコミュニケーション、管理栄養士国家試験完全攻略/○×チェック実戦 4000 問 2006 年版、医歯薬出版.
4. 照屋浩司 : 社会環境と健康、6. 生活習慣 (ライフスタイル) の現状と対策、管理栄養士国家試験完全攻略/○×チェック実戦 4000 問 2006 年版、医歯薬出版.

成人保健学教室

I. 口演

1. 川村治子：医療現場における転倒・転落事故の発生要因と防止，第3回福岡医療安全フォーラム、福岡、平成17年5月19日
2. 川村治子：医療への不満・不信の構造～患者はなぜ不満・不信を抱くのか？相談事例より検討～ 第4回日本不妊カウンセリング学会学術集会、東京、平成17年6月17日
3. 川村治子：医療事故防止をどう教えるのか，広島県専任看護教員研修会、広島、平成16年7月21日
4. 川村治子：医療事故防止をどう教えるのか，福岡県看護協会研修会，福岡，平成16年8月28日
5. 川村治子：事例から学ぶ医療事故防止，大阪府看護協会研修会，大阪，平成16年9月10日
6. 川村治子：転倒・転落事故防止の考え方と対策～転倒・転落ヒヤリハット1,500事例の分析から～，全国自治体病院協議会岐阜県支部研修会，岐阜，平成17年10月15日
7. 川村治子：看護事故の防止～転倒・転落～，第54回日本農村医学会学術集会，軽井沢、平成10月21日

II. 著書

1. 川村治子：医療事故紛争の予防・対応の実務．新日本法規，東京，2005，P161-170
2. 川村治子：厚生労働省「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書、東京、日本看護協会出版会，2005，P78-88
3. 川村治子：系統看護学講座専門2 基礎看護技術I，医学書院，東京，2006，P183-239

精神保健学 Health Sciences,

1. 口演

1. 田島治：プライマリケア医のためのメンタルヘルスー日常臨床で遭遇する不安ーその鑑別と治療ー．山形県臨床内科医会，山形，平成17年4月7日．
2. 田島治：プライマリケア医のためのメンタルヘルス．ー日常臨床で遭遇する不安ーその鑑別と治療ー．松本市医師会生涯教育講座，松本，平成17年5月12日．
3. 田島治：Management of Depression by Primary Care Physicians in Asia Pacific Region．WONCA 世界一般医・家庭医学会，京都，平成17年5月29日．
4. 田島治：抗うつ薬の activation syndrome について．ミルナシプランフォーラム，東京，平成17年6月10日．
5. 田島治：抗うつ薬と activation syndrome．第6回神奈川セロトニン研究会，横浜，平成17年6月24日．
6. 田島治：プライマリ・ケアで遭遇するうつと身体症状ー模擬患者さんへの問診を通してー．朝日臨床医学セミナー，大阪，平成17年7月2日．

7. 田島治：プライマリ・ケアで遭遇するうつと身体症状ーその鑑別と治療ー。朝日臨床医学セミナー，神戸，平成17年7月9日。
8. 田島治：一般診療科におけるSSRIの使い方。アステラス研修会，東京，平成17年9月13日。
9. 田島治：抗うつ薬の使い分け・うつ病領域に関する最新情報。SNRIフォーラム，東京，平成17年9月29日。
10. 田島治：躁うつ病の最近の話題について。第8回湘南精神薬理談話会，藤沢，平成17年10月17日。
11. 田島治：社会不安障害の診断と治療。山形県臨床内科医会，山形，平成17年10月20日。
12. 田島治：社会不安障害（SAD）・見逃されていた不安障害の現状と治療の効果。プレスセミナー，東京，平成17年11月2日。
13. 田島治：社会不安障害の薬物療法。第7回多摩精神薬理研究会，八王子，平成17年11月4日。
14. 田島治：不安障害とうつ病に対するBZDとSSRIの併用療法。不安障害フォーラム，大阪，平成17年11月10日。
15. 田島治：社会不安障害の診断と治療。愛知精神神経科診療所協会学術講演会，名古屋，平成17年11月19日。
16. 田島治：社会不安障害における薬物療法の位置付け。津医師会学術講演会，津，平成17年12月19日。
17. 田島治：社会不安障害（SAD）の治療ー薬物療法を中心にー。北海道医師会教育講座，札幌，平成18年1月14日。
18. 田島治：社会不安障害（SAD）見逃されていた不安障害の現状と治療の効果。宮古医師会学術講演会，宮古，平成18年1月19日。
19. 田島治：見逃されていた社会不安障害の現状と治療の効果。岡山医師会学術講演会，岡山，平成18年1月26日。
20. 田島治：精神障害とは。精神保健ボランティア講座，三鷹，平成18年1月27日。
21. 田島治：うつ病や不安神経症の正しい理解と対応。精神保健福祉講演会，八王子，平成18年2月7日。
22. 田島治：SADの治療における薬物療法の位置づけ。SAD研究会，東京，平成18年2月11日。
23. 田島治：社会不安障害（SAD）見逃されていた不安障害の現状と治療の効果。不安障害学術講演会，盛岡，平成18年2月17日。

24. 田島治：社会不安障害（SAD）見逃されていた不安障害の現状と治療の効果. ルボックス適応追加記念講演会，松本，平成 18 年 2 月 22 日.

25. 田島治：社会不安障害～見逃されていた不安障害の現状と治療～. 社保・国保審査委員会学術講演会，大阪，平成 18 年 3 月 4 日.

26. 田島治：プライマリケアにおける不安障害の診断と治療. プライマリケア医のためのメンタルヘルスセミナー，平成 18 年 3 月 8 日.

27. Tajima O : Antipsychotics and diabetes - related adverse effects from the Japanese experience . VISION - CINP - RTD , Pattya , Mar.. 15, 2006.

II. 論文

1. 辻敬一郎, 田島治：SSRI による activation syndrome も併発し、非典型的な軽躁状態を呈した双極性 II 型障害の 1 症例. 臨床精神薬理 8 :483-488, 2005.

2. Asakura M¹, Tajima O (¹Department of Psychoneurology ,Yokohama City Seibu Hospital, St.Marianna University School of Medicine) : A Randomized , Double-Blind Study of Fluvoxamine Maleate in Patients with Depression or Depressive State . Jpn Pharmacol Ther 33:773-787, 2005.

3. 辻敬一郎, 田島治：統合失調症のプラセボ対照 RCT の実情. 臨床精神薬理 8:1377-1383, 2005.

4. 辻敬一郎, 田島治：抗うつ薬による activation syndrome . 臨床精神薬理 8 : 1697-1704 , 2005.

5. 田島治：社会不安障害における薬物療法の位置付けと心理教育的アプローチ. 臨床精神薬理 8 : 47-53 , 2005.

6. 田島治：全般性不安障害(GAD)-ストレスで見逃されている不安障害-. ストレスと臨床 23 : 21-23 , 2005.

7. 辻敬一郎, 田島治：うつ病治療における性差と抗うつ薬の使い方. 性差と医学 5 :45-52, 2005 .

8. Washizuka S¹, Kakiuchi C¹, Mori K¹, Tajima O, Akiyama T¹, Kato T² (¹Laboratory for Molecular Dynamics of Mental Disorders, Brain Science Institute , RIKEN , ²Department of Neuropsychiatry NTT East Kanto Medical Center) : Expression of mitochondria-related genes in lymphoblastoid cells from patients with bipolar disorder . Bipolar Disorders 7 : 146-152, 2005.

9. 田島治：「うつ病時代を再考する」－うつ病と自殺の観点から治療への介入－. 平成 16 年度 順天堂 精神医学研究所紀要. 14-26. 2005.

10. 田島治：うつ病治療の将来. 成人病と生活習慣病 3 : 337-341 , 2006.

11. 田島治：抗不安薬・抗うつ薬. 臨床と研究 83：65-69，2000.
12. 辻敬一郎，田島治：特殊条件下の抗うつ薬の用量－新規抗うつ薬を中心に－. 臨床精神薬理 9：605-614, 2006.
13. Asakura S，Tajima O & Koyama T：Fluvoxamine Treatment of Generalized Social Anxiety Disorder in Japan：A Randomized Double-blind，Placebo-controlled Study. Fluvoxamine for Social Anxiety Disorder in Japan：1-46, 2006.

Ⅲ. 著書

1. 田島治：社会不安障害における薬物療法の位置づけ. 社会不安障害治療のストラテジー. 小山司編. 東京，先端医学社，2005. p.109-117.
2. 田島治：抗うつ薬の投与開始と終了時のポイント. うつ病診断のコツと落とし穴. 上島 国利編. 東京，中山書店，2005. p.78-80.
3. 辻敬一郎，田島治：抗うつ薬による躁転はどのように考えたらいいか？その治療は？. 精神科. 保坂隆編. 東京，中外医学社，2005. p.154-156.
4. 田島治：実地臨床医のための SSRI の使い方. 東京，アステラス製薬株式会社，2005.
5. 田島治：世界における SAD（社会不安障害）の診断と治療の動向. 第6回九州地区 SSRI 研究会学術講演記録集. 福岡，九州地区 SSRI 研究会，2005. p.6-11.
6. 田島治：日本における SSRI の臨床. PSYCHO TOPICS. 牛島定信編. 東京，ファイザー株式会社，2005. p.1-4.
7. 田島治：SAD の病因メカニズム. SSRI と SAD. 上島国利編. 東京，ライフサイエンス，2005. p.41-47.
8. 辻敬一郎，田島治：うつ病・高齢者に対する使い方をみる. 抗不安薬活用マニュアル. 上島国利編. 東京，先端医学社，2006. p.90-101.
9. 田島治：精神疾患と脳-脳の機能と構造からみた精神疾患治療薬の作用. 精神看護学Ⅱ. 川野雅資編，東京，ヌーヴェルヒロカワ，2006. P.143-153.
10. 田島治：脳波検査. 精神看護学Ⅱ. 川野雅資編，東京，ヌーヴェルヒロカワ，2006. P.192.
11. 田島治：薬物療法. 精神看護学Ⅱ. 川野雅資編，東京，ヌーヴェルヒロカワ，2006. P.200-211.

Ⅳ. その他

1. 田島治：うつ病の薬物治療法の現状と課題. Toledomin Lecture 2005. JANSSEN pharmaceutical k.k., 2005.
2. 田島治：相互作用で抗うつ薬の薬効は落ちないか. 毎日ライフ，毎日新聞社，2005. p.101 -1

02.

3. 田島治（監修）：うつ病治療初期の観察のポイント．グラクソスミスクライン株式会社，2005.
4. 田島治：抗うつ薬は飲み始めとやめる時期に十分な注意を．毎日ライフ，毎日新聞社，2005． p. 60-65.
5. 田島治：パニック障害と不眠．毎日ライフ，毎日新聞社，2005． p92-93.
6. 田島治：プライマリケアにおける不定愁訴患者への対応．GSK ファーマシストジャーナル，2005． p. 10-13.
7. 田島治：社会不安障害(SAD)治療が可能な社交恐怖症．Medical ASAHI ，朝日新聞社，2005． p. 68-69.
8. 田島治：SAD の診断．SAD（社会不安障害）の病態と臨床，日本医師会雑誌カラー図説シリーズ，アステラス製薬株式会社，2005． p. 9-12.
9. 田島治：わが国における今後のうつ病および不安障害の治療について．SAD（社会不安障害）の病態と臨床，日本医師会雑誌カラー図説シリーズ，アステラス製薬株式会社，2005． p. 21-26.
10. 田島治（監訳）：Fluvoxamine によるうつ病の治療：中国人における成績．臨床精神薬理 8：1 157-1165 ， 2005.
11. 田島治（監訳）：重症うつ病の治療における fluvoxamine ．臨床精神薬理 8：995-1002，2005.
12. 田島治（監訳）：社会不安障害・治療の重要性と理解．臨床精神薬理 8：1635-1645，2005.
13. 田島治（監訳）：精神病性大うつ病の抗うつ薬治療・ σ 受容体の潜在的役割．臨床精神薬理 8：1849-1856 ， 2005 ． ．
14. 田島治（監修）：抗うつ薬の功罪．デイヴィッド・ヒーリー著・谷垣暁美訳．東京，みすず書房，2005.
15. 田島治：社会不安障害（SAD）見逃されていた不安障害の現状と治療の効果．JAPAN MEDICAL SOCIETY ， 2006.
16. 田島治：困難な症例から学ぶ．Schizophrenia Frontier ， 2006.

成人・高齢者看護学教室
Adult and Geriatric Nursing

口演

1. 近藤ふさえ：看護研究の基礎. 神奈川リハビリテーションセンター，厚木，平成 17 年 3 月 8 日，6 月 10 日，8 月 12 日，11 月 11 日.
2. 近藤ふさえ：看護研究の基礎を学ぶ. 国立精神・神経センター武蔵病院，小平，平成 17 年 6 月 21 日.
3. 近藤ふさえ：看護研究－研究計画書作成－. 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター，東京，平成 17 年 7 月 13 日，9 月 14 日，11 月 9 日. 平成 18 年 1 月 12 日，2 月 9 日.
4. 矢内陽子，三好理恵，坂本祐子：ホスピスケアにおいてゆとりを生み出す看護師のコミュニケーション態度. 第 36 回日本看護学会成人看護学Ⅱ，青森，平成 17 年 7 月 21 日.
5. 近藤ふさえ，岡美智代：教育方法に関する知識・技術教育－技法を駆使する前段階から始まる具体的方法 患者教育研究会第 1 回公開講座－患者教育のための「看護実践モデル」－. 日本赤十字看護大学，東京，平成 17 年 8 月 6 日.
6. 近藤ふさえ，鈴木麻美，浅間泉：2 型糖尿病患者の睡眠に関する文献的考察，第 10 回日本糖尿病看護教育学会，福岡，平成 17 年 9 月 17-18 日.
7. 近藤ふさえ，岡美智代，滝口成美，伊波早苗，河口てる子，下村裕子，安酸史子，小平京子，井上智恵，小田和美，山本千恵子：患者教育のための看護実践モデル その 3 教育技法，第 25 回日本看護科学学会，青森，平成 17 年 11 月 18-19 日.
8. 吉田久美子，石田和子¹，神田清子²（¹ 群馬大・医・附属病院，² 群馬大学・院・医学系研究科）：外来通院をしている血液腫瘍患者のセルフケア達成感の影響要因. 第 20 回日本がん看護学会学術集会，福岡，平成 18 年 2 月 12 日.
9. 上好恵¹，外崎明子¹，操 華子²，林 直子³，射場典子¹，飯岡由紀子⁴，松崎直子¹，富田美和¹，市川和可子¹，玉橋容子²，鈴木久美⁵，古宇田香⁶，金久保愛子，村田由紀子⁷，川地香奈子⁸，小松浩子¹（¹ 聖路加看護大，² 聖路加国際病院，³ 聖路加看護大・21 世紀 COE 研究員，⁴ 聖路加看護大・院・博士課程，⁵ 聖路加看護大・看護実践開発研究センター，⁶ 三井記念病院，⁷ ファイザー製薬，⁸ 都立駒込病院）：外来がん化学療法における看護ガイドラインの開発と評価 - ガイドライン試案の作成 - . 第 20 回日本がん看護学会学術集会，福岡，平成 18 年 2 月 11-12 日.
10. 近藤ふさえ，岡美智代：教育方法に関する知識・技術教育－技法を駆使する前段階から始まる具体的方法 患者教育研究会第 1 回公開講座－患者教育のための「看護実践モデル」－. 弘前大学医学部保健学科，弘前，平成 18 年 3 月 5 日.

論文

1. 近藤ふさえ，土屋有利子，竹内千恵子，今留忍，佐藤澄子，鳥村祥子，古谷真実子，山本洋子，市村まゆみ，寺田阿津子，大木順子：新卒看護師と看護学生の基礎看護技術の経験に関する調査. 杏林大研報 教養部門，23：79-93，2005.
2. 小林優子：看護・介護職のためのストレスマネジメント第 3 回ストレスコーピングとストレスマネジメントの手法②～抵抗力を高める. 臨老看 12 (3)：104-109，2005.
3. 小林優子：看護・介護職のためのストレスマネジメント第 4 回ストレスコーピングとストレスマネジメントの手法③～コミュニケーション，自己主張. 臨老看 12 (4)：135-143，2005.
4. 小林優子：看護・介護職のためのストレスマネジメント第 5 回ストレスコーピングとストレスマネジメントの手法④～ストレス状態を緩和する（リラクゼーション）その 1. 臨老看 12 (5)：92-100，2005.
5. 小林優子：看護・介護職のためのストレスマネジメント第 6 回ストレスコーピングとストレス

- マネジメントの手法⑤～ストレス状態を緩和する（リラクゼーション）その 2. 臨老看 12 (6) : 129-138, 2005.
6. 小林優子：看護職のストレッサーとは. 看護 57 (14) : 22-26, 2005.
 7. 三好理恵, 矢内陽子, 坂本祐子：ホスピスケアにおいてゆとりを生み出す看護師のコミュニケーション態度, 第 36 回日看会論集 (成人看Ⅱ) : 3-5, 2005.
 8. 吉田久美子, 石田順子¹, 瀬山留加², 神田清子³ (¹ 本庄児玉看護専門学校,² 高崎健康福祉大,³ 群馬大・院・医学系研究科) : がん化学療法に関する看護研究の動向. 日がん看会誌 19 (2) : 95-104, 2005.
 9. 吉田久美子, 神田清子¹ (¹ 群馬大・院・医学系研究科) : 外来通院をしている血液腫瘍患者の自己効力感の影響要因. The Journal of Nursing Investigation : 6-14, 2005.
 10. 石田和子¹, 萩原薫¹, 石田順子², 赤石三佐代³, 吉田久美子, 平井和恵⁴, 川田悦夫⁵, 神田清子⁶ (¹ 群馬大・医・附属病院看護部,² 本庄児玉看護専門学校,³ 群馬大・院・医学系研究科看護学専攻,⁴ 横浜市立大,⁵ 群馬大・医・附属病院総合診療部,⁶ 群馬大・院・医学系研究科) : 造血幹細胞移植患者が退院後に遭遇する困難と移植後の生活を再構築できる要因. KITAKAN TO MED J 55 (2) : 97-104, 2005.
 11. Kumiko Y&Kiyoko K¹ (¹ Gunma University School of Health Sciences) : The influence factors of self-care achievement and nursing of hematopostema outpatients. KITAKANTO MED J 55 (4) : 361-366, 2005.
 12. 瀬山留加¹, 吉田久美子, 神田清子² (¹ 高崎健康福祉大,² 群馬大・院・医学系研究科) : 語りにみる進行がん患者の社会的側面の変化と苦痛. 群馬大学紀要 26 : 61-70, 2005.

著書

1. 吉田久美子：X 感覚機能障害への検査と看護. 臨床看護技術. 神田清子, 大西和子編. 東京, ヌーヴェルヒロカワ, 2005. p. 200-208.
2. 金久保愛子：⑱甲状腺機能亢進症. クリニカルスタディ. 第 26 巻第 12 号. 東京, メジカルフレンド社, 2005. p. 40-41.
3. 鈴木麻美：⑳熱中症. クリニカルスタディ. 第 26 巻第 12 号. 東京, メジカルフレンド社, 2005. p. .
4. 近藤ふさえ：㉑糖尿病. クリニカルスタディ. 第 26 巻第 12 号. 東京, メジカルフレンド社, 2005. p. .
5. 金久保愛子, 川西千恵美¹ (¹ 徳島大・医・保健) : 読んでナットク ギモン解決 Q&A. Expert Nurse. 第 21 巻第 13 号. 東京, 照林社, 2005. p. 11-12.
6. 金久保愛子, 川西千恵美¹ (¹ 徳島大・医・保健) : 読んでナットク ギモン解決 Q&A. Expert Nurse. 第 22 巻第 1 号. 東京, 照林社, 2006. p. 16.
7. 近藤ふさえ：合併症をもつ患者の心理と援助. 東京, プラクティス別冊 糖尿病療養指導のポイント Q&A, 2006. p. 84-87.
8. 近藤ふさえ：患者の気づきを高める. 東京, プラクティス別冊 糖尿病療養指導のポイント Q &A, 2006. p. 68-69.

精神看護学

I. 口演

1. 川崎洋介, 大瀧純一, 古賀良彦¹ (杏林大・医・精神神経科学) : 99mTc-ECD SPECT 脳血流画像を用いた軽度認知機能、障害の進行予測. 第 101 回日本精神神経学会総会, さいたま, 平成 17 年 5 月 20 日

II. 論文

1. 大瀧純一, 大澤亜貴子, 依田晴香, 松尾令子, 浅沼奈美 : 高齢者における ADL と血液検査との関係. 全日本病院協会雑誌, 16, 12-14, 2005
2. 川崎洋介, 大瀧純一 : ミルナシプランにより認知機能改善を認めた軽度認知機能障害の 1 例. 老年精神医学雑誌, 16 : 12, 1394-1402, 2005

母子看護・助産学

I. 口演

1. 大脇淳子 : シンポジウム 症例に学ぶ 3. 看護の立場 : 乳幼児アレルギー疾患患者の母親への支援と思春期患者へのサポート体制、第 22 回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会、大阪、平成 17 年 5 月 14-15 日.
2. 近藤桃子¹, 安岡咲子¹, 佐々木裕子, 今美希, 山元有佳, 土屋有利子, 佐藤喜美子, 竹内千恵子, 高橋康一 (杏林大・保・看護学科) : 里帰り出産と父子関係(第1報). 第23回東京母性衛生学会学術集会, 東京, 平成17年5月22日.
3. 佐々木裕子, 近藤桃子¹, 安岡咲子¹, 今美希, 山元有佳, 土屋有利子, 佐藤喜美子, 竹内千恵子, 高橋康一 (杏林大・保・看護学科) : 里帰り出産と父子関係(第2報). 第23回東京母性衛生学会学術集会, 東京, 平成17年5月22日.
4. 有田真弓¹, 三輪久美子¹, 横山朋子¹, 今美希, 山元有佳, 土屋有利子, 佐藤喜美子, 竹内千恵子, 高橋康一 (杏林大・保・看護学科) : 大学生の月経随伴症状に関する検討. 第23回東京母性衛生学会学術集会, 東京, 平成17年5月22日.
5. 今美希, 有田真弓¹, 三輪久美子¹, 横山朋子¹, 山元有佳, 土屋有利子, 佐藤喜美子, 竹内千恵子, 高橋康一 (杏林大・保・看護学科) : 大学生の月経随伴症状に関する検討(第2法). 第23回東京母性衛生学会学術集会, 東京, 平成17年5月22日.
6. 時山昇子¹, 遠井万里子¹, 山元有佳, 佐藤喜美子, 高橋康一 (杏林大・保・看護学科) : 多胎児をもつ母親の育児の現状と支援へのニーズ (第1報). 第23回東京母性衛生学会, 東京, 平成17年5月22日.
7. 山元有佳, 時山昇子¹, 遠井万里子¹, 佐藤喜美子, 高橋康一 (杏林大・保・看護学科) : 多胎児をもつ母親の育児の現状と支援へのニーズ (第2報). 第23回東京母性衛生学会, 東京, 平成17年5月22日.
8. 三崎加寿子¹, 結城寛子¹, 片山奈美¹, 今美希, 山元有佳, 佐々木裕子, 土屋有利子, 佐藤喜美子, 竹内千恵子, 高橋康一 (杏林大・保・看護学科) : 助産学生による大学生を対象とした性のピアエデュケーションの効果. 第23回東京母性衛生学会学術集会, 東京, 平成17年5月22日.
9. 鈴木英子¹, 堀井さやか¹, 太田香苗¹, 丸山昭子, 叶谷由佳² (天使大・看・精神看護学, ²山形大・医・地域看護学) : 大学病院に勤務する新卒看護師の重度バーンアウト発症の縦断研究. 第15回日本精神保健看護学会, 札幌, 平成17年6月5日.
10. 佐々木裕子, 高橋真理¹ (北里大・看) : 第一子妊娠中の妊婦とその夫が持つ家族イメージ.

日本家族看護学会第12回学術集会, 千葉, 平成17年9月3-4日.

11. 丸山昭子, 安梅勅江¹, 田中裕², 酒井初恵³, 庄司ときえ⁴, 宮崎勝⁴ (¹国立看護大・研究課程, ²治田西カナリヤ第3保育園, ³小倉北ふれあい保育所, ⁴あすなろ夜間保育園) : 3歳児の発達における複合的な関連要因—ストレス, 育児環境, 保育時間との関係性から— . 第2回子ども学会議, 東京, 平成17年9月3日.
12. 太田ひろみ¹, 佐藤喜美子, 山口佳子¹, 加藤昌代¹, 塚原洋子¹ (¹杏林大・保・地域看護学) : 乳児期の子どもを持つ父親の育児学習ニーズの検討. 第64回日本公衆衛生学会総会 札幌, 平成17年9月14-16日.
13. 武市洋美¹, 橋本佳美, 平澤美恵子², 新田真弓², 長内佐斗子³, 村上睦子³ (¹桶谷乳房管理研修センター, ²日赤看護大, ³日赤医療センター) : 助産師による退院後の低出生体重児の母乳育児支援. 第20回日本母乳哺育学会, 横浜, 平成17年9月17-18日.
14. 佐々木裕子, 今美希, 山元有佳, 土屋有利子, 佐藤喜美子, 竹内千恵子, 高橋康一 : 里帰り出産と動機との関連. 第46回日本母性衛生学会, 宮崎, 平成17年10月6-7日.
15. 時山昇子¹, 遠井万里子¹, 山元有佳², 佐藤喜美子², 高橋康一² (¹杏林大・医・付属病院, ²杏林大・保・看護学科) : 多胎育児の実態と支援へのニーズ (第1報). 第46回日本母性衛生学会, 宮崎, 平成17年10月6-7日.
16. 山元有佳², 時山昇子¹, 遠井万里子¹, 佐藤喜美子², 高橋康一² (¹杏林大・医・付属病院, ²杏林大・保・看護学科) : 多胎育児の実態と支援へのニーズ (第2報). 第46回日本母性衛生学会, 宮崎, 平成17年10月6-7日.
17. 土屋有利子, 竹内千恵子, 今美希, 山元有佳, 佐々木裕子, 佐藤喜美子, 高橋康一 : ピアカウンセリングの実践の効果. 第46回日本母性衛生学会, 宮崎, 平成17年10月6-7日.
18. 竹内千恵子, 島田絵美¹, 土屋有利子, 今美希, 山元有佳, 佐々木裕子, 佐藤喜美子, 高橋康一 (¹聖母女子短大・専攻科) : 幼児の性教育実践に関する検討—保護者へのかかわりとその効果— . 第46回日本母性衛生学会, 宮崎, 平成17年10月6-7日.
19. 山田裕美¹, 徳永豊子², 竹内千恵子, 土屋有利子, 今美希, 山元有佳, 佐々木裕子, 佐藤喜美子, 高橋康一 (¹上田レディースクリニック, ²介護老人保健施設ケアなかめぐろ) : 幼児の性教育実践に関する検討—保育士への働きかけの効果— . 第46回日本母性衛生学会, 宮崎, 平成17年10月6-7日.
20. 齊藤益子¹, 松永佳子¹, 加藤千晶¹, 大村倫子², 佐々木百合子³, 宮崎文子⁴, 佐藤喜美子, 森谷美智子⁵ (¹東邦大学, ²国立東が丘看護助産学校, ³聖隷クリストファ大・短大, ⁴大分県立保健科学大, ⁵日本赤十字社助産師学校) : 助産師学生が考える卒業時の助産ケア能力—分娩期の助産ケアの自己評価から—第46回日本母性衛生学会, 宮崎, 平成17年10月6-7日.
21. 三浦千裕¹, 千木良寛子¹, 橋本佳美 (¹杏林大・保・看護学科) : 1型糖尿病児の嫌体験への対処行動の実態. 第52回日本小児保健学会, 下関, 平成17年10月6-8日.
22. 一河亜沙子¹, 吉田芙美子¹, 丸山昭子, 橋本佳美 (¹杏林大・保・看護学科) : 学童期の友人関係の広がりについて—児童館での遊びの調査より— . 第52回日本小児保健学会, 山口, 平成17年10月6-8日.
23. 丸山昭子, 大関武彦¹, 安梅勅江² (¹浜松医科大・医・小児科学, ²国立看護大・研究課程) : 長時間保育と育児環境, 育児に対する親の自信, 子どもの保育所への適応との関連性. 第52回日本小児保健学会, 山口, 平成17年10月6-8日.
24. 小澤真弓¹, 木村芳正¹, 鈴木奈都紀¹, 大脇淳子, (¹杏林大・保・看護学科) : 洗浄道具の違いによる皮膚への影響—ナイロンタオルと手の比較— . 第52回日本小児保健学会, 下関, 平成17年10月6-8日.
25. 太田ひろみ¹, 佐藤喜美子, 塚原洋子¹ (¹杏林大・保・地域看護学) : 乳児期の子どもを持つ父親への育児学習支援 52回日本小児保健学会 下関, 平成17年10月6-8日.
26. 丸山昭子, 安梅勅江¹, 田中裕², 酒井初恵³, 庄司ときえ⁴, 宮崎勝宣⁴, 篠原亮次¹, 杉澤悠

- 圭¹（¹国立看護大・研究課程，²治田西カナリヤ第3保育園，³小倉北ふれあい保育所，⁴あすなる夜間保育園）：保育園を利用する2歳児の発達における複合的な関連要因—保護者のストレスとの関係性から—。第18回日本保健福祉学会学術集会，東京，平成17年11月26日。
27. 太田ひろみ¹，佐藤喜美子，山元有佳（¹杏林大・保・地域看護学）：保健師に求められる多胎育児グループへの支援，第20回日本双生児研究学会，東京，平成17年1月28日。
28. 橋本佳美，武市洋美¹，平澤美恵子²，新田真弓²，長内佐斗子³，村上睦子³（¹桶谷乳房管理法研修センター，²日赤看護大，³日赤医療センター）：低出生体重児の母乳育児支援—助産師による訪問援助の評価—。第20回日本助産学会，東京，平成18年3月4—5日。
29. 佐々木裕子，高橋真理¹（¹北里大・看）：第一子出生後の家族関係と父親の親意識との関連—父・母・子三者関係を中心に—。第20回日本助産学会学術集会，東京，平成18年3月4—5日。

II. 論文

- 橋本佳美，佐藤喜美子，塚原洋子¹，加藤英世²，石野晶子²，場家美沙紀²，松田博雄³（¹杏林大・保・地域看護学，²杏林大・保・保健学科，³杏林大・医）：極低出生体重児の育児支援—育児サークル「びあんず」の活動を通して—。保健の科学 47(6) 457-461, 2005.
- 安梅勅江¹，田中裕²，酒井初恵³，庄司ときえ⁴，宮崎勝宣⁴，丸山昭子，湊田英津子⁵（¹国立看護大・研究課程，²治田西カナリヤ第3保育園，³小倉北ふれあい保育所，⁴あすなる夜間保育園，⁵東北文化大学・医療福祉）：子どもの発達への子育て環境の影響に関する5年間追跡研究。子ども環境学研究 1（1）：159—164, 2005.
- 丸山昭子，大関武彦¹，安梅勅江²（¹浜松医科大・医・小児科学，²国立看護大・研究課程）：保育園児の社会適応の関連要因—保育時間に焦点をあてて—。保育と保健 12（1）：25—30, 2006.
- 近藤ふさえ¹，土屋有利子，竹内千恵子，今留忍²，佐藤澄子³，鳥村祥子³，古谷麻実子³，山本洋子³，市村まゆみ⁴，寺田阿津子⁴，大木順子⁴（¹杏林大・保・成人高齢者看護学，²杏林大・保・基礎看護学，³杏林大・医・付属病院看護部，⁴杏林大・医・付属看護専門学校）：新卒看護師と看護学生の基礎看護技術の経験に関する調査。杏林大学研究報告教養部門 23：79—93, 平成17年2月。

III. 著書

- 佐々木裕子：働く女性。ウィメンズヘルスナーシング。女性のライフサイクルトナーシング。女性の生涯発達と看護。ライフサイクルと女性の心理。村本淳子，高橋真理編。東京，ヌーベルヒロカワ，2005，p57-61.
- 佐々木裕子：女性と環境。ウィメンズヘルスナーシング。女性のライフサイクルトナーシング。女性の生涯発達と看護。ライフサイクルと女性の心理。村本淳子，高橋真理編。東京，ヌーベルヒロカワ，2005，p 61-69.

IV. その他

- 綿貫恵美子¹，岡有美²，菊地千鶴子³，シェザード樽塚まち子¹，時田純子⁴，鈴木紀子⁵，藤本薫⁶，佐々木裕子（¹北里大・看，²聖母病院，³相模原市保健所，⁴前北里大・院，⁵埼玉県立常盤高，⁶北里大・院）：翻訳 禁煙への看護介入 Cochrane データベース/システムマティック・レビューより。看護研究，38(3)，199-218, 2005.
- 綿貫恵美子¹，岡有美²，菊地千鶴子³，シェザード樽塚まち子¹，時田純子⁴，鈴木紀子⁵，藤本薫⁶，佐々木裕子（¹北里大・看，²聖母病院，³相模原市保健所，⁴前北里大・院，⁵埼玉県立常盤高，⁶北里大・院）：メタアナリシスに方法に関するクリティーク「翻訳：禁煙への看護介入」を題材に。看護研究，38(3)，219-222, 2005.
- 平澤美恵子¹，橋本佳美，新田真弓¹，村上睦子²，長内佐斗子²，武市洋美³（¹日赤看護

大、²日赤医療センター、³桶谷乳房管理研修センター)：極低出生体重児を出生した母子への育児支援ー母乳育児継続に向けてのサポート体制作りー。平成14年度～平成16年度科学研究費補助金研究成果報告書。平成17年3月。

4. 佐藤喜美子：平成17年度 調布市男女共同参画のための講座、子育て講座(からだのことが知っていますか・伝えていますか1～夫へ～)、調布市生活文化部市民参加推進室、東京、平成17年10月25日
5. 佐藤喜美子：平成17年度 調布市男女共同参画のための講座、子育て講座(からだのことが知っていますか・伝えていますか2～子どもへ～)、調布市生活文化部市民参加推進室、東京、平成17年11月8日
6. 市民公開講座 第3回エパルクオープンセミナー(専門相談員)、セキ・アレルギー・ぜんそくの疑問に専門家と熟練患者(EP)が答える大相談会、NPO 法人 EPAREC;環境汚染等から呼吸器病患者を守る会、東京、平成18年2月12日。

地域看護学

1 口演

1. 塚原洋子：地域のなかの保健師活動(個別援助から地域のネットワークづくりへ) 防衛医科大学看護学校講演 さいたま、平成17年5月30日。
2. 山口佳子：保健師基礎教育の現状と現任教育への期待、保健医療科学院 和光、平成17年6月3日。
3. 塚原洋子：現任教育のあり方 国立保健医療科学院 和光、平成17年6月3日。
4. 山口佳子, 加藤昌代, 太田ひろみ, 塚原洋子(杏林大・保・看)：講義・演習・実習を連動させた地区診断の教育方法に関する評価と検討。日本地域看護学会第7回学術集会, 豊田, 平成17年6月11日。
5. 太田ひろみ, 加藤英世, 朝野聡：性教育における地域保健への期待 第24回日本思春期学会学術集会 和光, 平成17年8月20日。
6. 太田ひろみ：多胎育児でぶつかる壁 ～扉を開けよう～, みなと保健所ふたごの会講演会, 東京, 平成17年9月14日。
7. 山口佳子, 加藤昌代, 太田ひろみ, 塚原洋子：新任期の市町村保健師が感じる困難と対処方法。第64回日本公衆衛生学会総会, 札幌, 平成17年9月15日。
8. 太田ひろみ, 佐藤喜美子, 山口佳子, 加藤昌代, 塚原洋子：乳児期の子どもを持つ父親の育児学習ニーズの検討。第64回日本公衆衛生学会総会 札幌, 平成17年9月15日。
9. 菊間博子¹, 坂口佳江², 飯田恵久子³, 鈴木恵子⁴, 山口佳子, 鳩野洋子⁵(¹神奈川県厚木保健福祉事務所、²立命館大学大学院、³東京都府中市役所、⁴千葉県鎌ヶ谷市役所、⁵国立保健医療科学院)：市町村における保健事業委託に関する調査 第1報ー質問紙調査から。第64回日本公衆衛生学会総会, 札幌, 平成17年9月15日。

10. 鈴木恵子¹，飯田恵久子²，菊間博子³，坂口佳江⁴，山口佳子，鳩野洋子⁵（¹千葉県鎌ヶ谷市役所、²東京都府中市役所、³神奈川県厚木保健福祉事務所、⁴立命館大・院、⁵国立保健医療科学院）：市町村における保健事業委託に関する調査 第2報－聞き取り調査から。第64回日本公衆衛生学会総会，札幌，平成17年9月15日。
11. 太田ひろみ，佐藤喜美子，塚原洋子：乳児期の子どもを持つ父親への育児学習支援 52回日本小児保健学会 下関，平成17年10月6日。
12. 塚原洋子：保育園に子どもを預けて働く母親の保健意識と保健行動，52回日本小児保健学会 下関，平成17年10月7日。
13. 塚原洋子：母子保健活動の中で個別事例に向き合うとき、府中、平成17年11月11日。
14. 加藤昌代¹，岩永俊博，渡辺志保²，田中良明³（¹杏林大・保・看護，²地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター，³葛飾区小菅保健センター）：住民のエンパワーメント－健康せきじょう21計画策定をとおして－。第9回日本健康福祉政策学会，三鷹，平成17年11月12日。
15. 勝沼敏江¹，加藤昌代²（¹筑西市保健センター、²杏林大・保・看護）：健康せきじょう21計画の推進－住民の立場から－。第9回日本健康福祉政策学会，三鷹，平成17年11月12日。
16. 勝沼敏江¹，加藤昌代²（¹筑西市保健センター、²杏林大・保・看護）健康せきじょう21計画策定に参加して。第9回日本健康福祉政策学会，三鷹，平成17年11月12日
17. 長瀬和江¹（¹日野市役所健康課），太田ひろみ：日野市健康作り推進員活動報告。第9回日本健康福祉政策学会学術大会 三鷹，平成17年11月12日。
18. 山城直子¹（¹日野市役所健康課），太田ひろみ：地区活動と保健師の関わりについて～日野市多摩平地区自治会との協働～。第9回日本健康福祉政策学会学術大会 三鷹，平成17年11月13日。
19. 塚原洋子：素敵にエイジング（長寿社会でいきいき暮らす） 市民公開講座 東京、平成17年11月19日。
20. 太田ひろみ：多胎児の親の会支援の必要性，母子保健協議会多胎育児講演会，野田，平成17年12月2日。
21. 太田ひろみ，佐藤喜美子¹，山元有佳：保健師に求められる多胎育児グループへの支援。第20回日本双生児研究学会，町田，平成18年1月28日
22. 山口佳子：神奈川県 第27回地域保健師研究発表会 講演「行政サービスの民間移管と自治体保健師の役割」，横浜、平成18年2月8日
23. 加藤昌代：「地域づくり型保健活動」における住民のエンパワーメント。やどかり研究所報告・交流集会，さいたま，平成18年2月18日。

II. 論文

1. 山口佳子, 塚原洋子(杏林大・保・看) : 新任期に市町村保健師が感じる困難と効果的な対処方法の現状からみた現任教育のあり方, 杏林大学研究報告教養部門, 第 23 巻, 67-77, 2005.
2. 山口佳子(杏林大・保・看), 菊間博子(神奈川県厚木保健福祉事務所), 鳩野洋子(国立保健医療科学院), 飯田恵久子(東京都府中市役所), 坂口佳江(立命館大学大学院), 鈴木恵子(千葉県鎌ヶ谷市役所) : 保健事業委託を効果的かつ質の高いものにするための市町村保健師の役割, 保健師ジャーナル, 61(10), 926-931, 2005.
3. 鳩野洋子(国立保健医療科学院), 菊間博子(神奈川県厚木保健福祉事務所), 山口佳子(杏林大・保・看), 飯田恵久子(東京都府中市役所), 坂口佳江(立命館大学大学院), 鈴木恵子(千葉県鎌ヶ谷市役所) : 保健事業委託に関する現状(1) 調査からみた委託の実態と課題, 保健師ジャーナル, 61(10), 906-910, 2005.

III. 報告書

1. 菊間博子(神奈川県厚木保健福祉事務所), 飯田恵久子(東京都府中市役所), 坂口佳江(立命館大学大学院), 鈴木恵子(千葉県鎌ヶ谷市役所), 鳩野洋子(国立保健医療科学院), 山口佳子(杏林大・保・看), 池田信子(日本看護協会保健師職能理事) : 保健サービス提供体制に関する検討小委員会(中間報告), 平成 17 年度 日本看護協会職能集会検討資料, 32-45, 2005.
2. 菊間博子(神奈川県厚木保健福祉事務所), 飯田恵久子(東京都府中市役所), 坂口佳江(立命館大学大学院), 鈴木恵子(千葉県鎌ヶ谷市役所), 鳩野洋子(国立保健医療科学院), 山口佳子(杏林大・保・看), 池田信子(日本看護協会保健師職能理事) : 地域保健サービス提供体制に関する検討小委員会報告書, 社団法人日本看護協会, 2005.
3. 佐伯和子(北海道大学医学部), 岡山美由樹(岡山県保健福祉部), 大橋範秀(三重県健康福祉部), 島津多恵子(さいたま市保健所), 武見ゆかり(女子栄養大学栄養学部), 福本恵(京都府立医科大学医学部看護学科), 山口佳子(杏林大・保・看) : 新任時期の人材育成プログラム評価検討会報告書, 平成 18 年 3 月.
4. 塚原洋子 : 要支援家庭の把握と支援のための母子保健事業のガイドライン : 平成 18 年 2 月, 東京都福祉保健局.
5. 塚原洋子 : 小平市高齢者保健福祉計画 : 平成 18 年 3 月, 小平市.
6. 塚原洋子 : 東村山市高齢者保健福祉計画 : 平成 18 年 3 月, 東村山市.